

環境・観光部会の審議状況

第1回部会

環境・観光部会審議テーマの検討

環境・観光部会で審議する課題候補

環境まちづくり

- ・活動団体の活性化
- ・環境教育

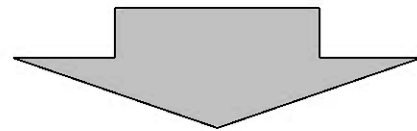
藤子・F・不二雄ミュージアム開館に伴う商店街などの活性化

写真による心のふるさとづくり

二ヶ領用水竣工400年記念へ向けての諸イベントの取り組み

多摩区40周年
・郷土愛
・多摩区の歴史

地球環境推進
・マイバックの推進
・緑のカーテンなど



多摩区40周年

40周年をテーマに、どんなことができそうか検討を行っていく。

- ・多摩区の40周年をきっかけに、多摩区の魅力発信を行う。
- ・多摩区の40周年をきっかけに、子どもや若い人たちに喜んでもらえる区にしていく。
- ・40周年をきっかけとして行っていくこともあるし、見直しを行っていくこともある。
- ・区民と行政も一緒になって、すばらしい40周年を行う。

例えば40周年をきっかけに、環境問題について取り組む。

例えば、40周年をきっかけに、多摩区まちの活性化に取り組む。

例えば、40周年をきっかけに、多摩区の魅力発信を行う。

第2回部会

部会のスケジュールと40周年の方針の検討

スケジュールと方針の決定

- 平成24年度予算に間に合うタイミングである、2月～3月まで部会である程度まとめて、平成23年度最初の区民会議にて具体的な形とする。
- 40周年のテーマは、「40周年をきっかけに多摩区の良いところの活性化とアピール、次世代（子ども）へ繋げていく」とする。
- 40周年をきっかけにどのような事ができるか、取り組めるかについて区民会議委員へ調査を行い、どのようなことができるか分析する。

今後の課題

- 40周年で何ができそうかを集約した後、
 - ・出てきた課題やアイデアについてどのように形にしていくか。
 - ・イベント、行事、式典の担い手を検討する。
 - ・区による検討（出てきたアイデアの事業化の可否）
⇒協働推進事業として適切か。予算規模、他事業との関連など



多摩区40周年でどんなことができるか調査に協力ください

- 40周年でどんなことが、できるか、やりたいかを調査しますので、資料3の環境・観光部会検討シートに、
 - ・課題と概要
 - ・「活性化するためにはどうすれば良いか」
 - ・「アピールするためにはどうすれば良いか」
 - ・「次世代に繋げるためにはどうすれば良いか」を記入して11月19日（金）までに御提出ください。

【テーマ】 40周年をきっかけに多摩区の良いところの活性化とアピール、そして、次世代(子ども)へ繋げていく

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
これまでに出されている課題	環境まちづくり 環境活動の活性化と環境教育の充実を図る H22~H23で、多摩区における資源循環の環境や課題の把握及び区内の市民活動状況を分析し、H23に活性化のための提言をまとめる。	地球環境推進と合体	地球環境推進の課題と統合を行っていく。	意見内容の検討については、次の部会から
	藤子・F不二雄ミュージアム開館に伴う商店街などの活性化 商店街連合会や、稲田多摩川観光協会など多摩区観光推進協議会が、地元や近隣から集中するミュージアムへの客層への諸サービス体制を作り、PRの方策を検討、実施していく。年内に、検討、立案し、来秋を目処に継続的に具体化する。	ここで取り上げる「商店街」とは多摩区全体か。藤子・F不二雄ミュージアムの開館は、多摩区の実在を高めるが全商店街の活性化は無理と思う。交通アクセスが整うと商店街というより駅前だけとなる。商店街の活性化は、商店街自身がその気にならないと活性化は無理と考える	区民会議として取り上げるテーマに不適と考えます。	
	二ヶ領400年記念への諸イベントの取り組み 宿河原桜まつり、妙楽寺あじさいまつり、中野島音楽祭、多摩区民祭など関連する諸イベントを通して、町会連合会、商店街連合会、稲田多摩川観光協会などが、多摩川から取水して、長い間、恩恵に与ってきた二ヶ領用水の保全、改良をPRしていく。	400周年記念イベントは既に実行委員会を設けて取り組まれている。「源流のまち多摩区展」等生活に密接した二ヶ領用水としての保全、改良をテーマに取り上げることは意味がある。	以前の環境・観光部会で「F.F.Fへのアクセスロード整備」の取組みで、一定の方向付けがなされており、それらの施策の中で既に、商店街の活性化に繋がる部分があるので、それを活用していけばよい。	多数の来館者が予想されるが、道路交通上の混乱で事故が起きないように、地元としても充分、藤子プロや川崎市と協調して支援していきたい。
		二ヶ領用水を学び、日常生活に密接な関係がある二ヶ領用水となるような保全策を区民の意見を聞きながらまとめる	次世代も二ヶ領用水を必要とするようにすること	
		この取組みで、今期部会の新テーマとなった「多摩区40周年記念」での講演会や講座やフォーラムなどに活かしていけると思う。	特に地元の子供達は二ヶ領の諸イベントに参加することなどで、先祖達の努力と苦勞を知る良いきっかけになったのでは。	

40周年としては、時期が重ならないので要検討
 ○二ヶ領用水400周年は、平成23年3月
 ○区政40周年は、平成24年4月1日

課題	概要	検討の視点・アイデア			
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか	
これまでに出されている課題	写真による心のふるさとづくり (私の多摩100選)	区内の心に残る風景、家族や友人と撮った写真など一枚の写真に多くの物語があります。その思い出と写真を多摩区民から募集し、冊子にまとめ、販売します。スケジュールは22年～23年に募集し、23年に冊子を作成します。応募が多ければシリーズ化も検討。	まちづくり協議会のプロジェクトのテーマと考える。		
	環境まちづくり (地球環境推進)	マイバックや緑のカーテンなど、地球環境問題を身近なところから考えていく。他の区では、第1期区民会議(幸、中原、高津)第2期区民会議(川崎、高津、麻生)で行っている。	「環境のまちづくり」と組み合わせでどう取り組むかを考える。環境教育の対象を生徒とするならば教育委員会、区地域教育会議と共に取り組む。		
		1.地球環境をみんなで守ろう、理解しよう！ 2.身近でできる温暖化防止のとりくみを考えよう。 3.環境のまちづくりを支援できる体制を作ろう。	1.普及活動のための認識向上を図る 2.個人、家庭、職場、地域で取り組めるものは何か 3.エコ推進強化月間等を設けて、ポスターでよびかけたり、勉強会を開催。 例、市環境局地球環境推進室等と連携を図り視察見学をしたりして取り組み方を学ぶ。 ○省エネグループ ○ソーラーチーム ○グリーンコンシューマーグループ	1.写真展を開く 2. 応募された地点を結んで散歩コースをつくる 3. 観光地図に記入	1. 観光名所として残す(多摩区観光推進協議会と連携)
	環境活動の活性化と環境教育の充実を図る H22～H23で、多摩区における資源循環の環境や課題の把握及び区内の市民活動状況を分析し、H23に活性化のための提言をまとめる。	大人も子どもも身近にできる事を学び、体験できる機会をつくる。継続していくために、市民と区・市がそれぞれの役割を確認して共に取り組む(まちづくり協議会・活動団体・区と市それぞれの役割分担を明らかにして取り組む)	実践・活動している個人、グループ、団体が発表し、参加・体験できる機会、場をつくる。	子ども達が遊び・学ぶ場を興味を持った事から、調査、見学など自主的な取り組みをして、発表し、互いに共有できる機会をつくる。親子企画、学校や地域(子ども会や活動グループ)での取り組みなど、大人と子どもが一緒に取り組める機会を作り、広げる。継続していくための区として長・中期の取り組みをする。	

課題	概要	検討の視点・アイデア			
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか	
これまでに出されている課題	多摩区の歌	多摩区の歌を通じて、多摩区の良いところをPRする。 多摩区の歌を通じて区民の交流を図る。	多摩区の歌として「多摩川音頭」があるという意見も有る。また、多摩区で歌いつがれている歌を歴史と合わせて検証することも必要と思います。いずれにしてもまちづくり協議会で取り上げるテーマと思います。		
			区政40周年の記念事業の一環に、子どもから大人、区民みんなが親しめる歌「多摩区のうた」を区民から応募してつくる。すでに川崎市は「音楽のまちかわさき」、多摩区では「アトリウムコンサート」等が定着し、音楽を通して地域コミュニティの活性に成果が上がっています。”水と緑と学び(3大学)、伝統ある文化の街”のイメージを盛り込んだ歌をつくり、うたを通して区民のコミュニケーションを図り、多摩区の活性化と観光情報発信の促進につなげたい。応募に関して選考委員会(実行委員会)を立ち上げ(人材は多摩区で音楽に携わっている人)		区内の小、中、高校にはレベルの高い活躍をされてる合唱部、合奏部、大人のコーラスグループが多数あります。それらの人々から、多くの区民に歌い継がれ、伝統ある”多摩川音頭”と共に普及に努力し、CDを作成し幅ひろく区民に浸透、愛唱につなげる。

第3期多摩区区民会議 環境・観光部会検討シート(新規に考えられる課題)

【テーマ】 40周年をきっかけに多摩区の良いところの活性化とアピール、そして、次世代(子ども)へ繋げていく

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
40周年記念フォーラム	当部会だけでなく、他の2部会と一緒に、「こんな多摩区であつたら」(仮題)と題して、老若男女が参加できる幅広い議論と展示会を開催。	多摩区内の活動団体に参加を呼びかける。3大学や小中高校の協力も得てまじめさと祭り気分の混在した催しとする (例)区民祭で何らかの取り組み (例)文化協会の発表等で何らかの取り組み (例)観光推進協会で何らかの取り組み (例)3大学にて何らかの取り組み	一般の人たちは勿論、生徒や学生が参加しやすいように、春休みや土、日曜日を選ぶ。	小規模にして毎年開催(色々な世代から多摩区の将来を見つめて)40周年で行った行事について、冊子の作成
40周年関連諸行事	H24年・多摩区40周年を迎えるにあたり、多摩区全体の歴史を振り返ると共にこれを契機にして、地域特性としての水と緑をメインとした多摩区全体の魅力発信と魅力づくりを更に発展させていく諸行事を設定する。	できるだけ具体的に挙げてみると、例えば ア、「多摩区の歴史を振り返る公演」(例:講師2名、約2時間、ホールか大会議室) イ、多摩区の自然、文化、芸術などの」の講座(例:各2時間、5回程、各回講師) ウ、多摩川、二ヶ領用水、五反田川などの更なる環境美化活動、生田緑地の緑化保全活動、或いは岡本太郎美術館、日本民家園、青少年科学館、ばら苑、新設の藤子・F・不二雄ミュージアムなど“生田緑地ワールド”諸施設の更なる整備などに関する発表会など	市政だより、市民館だより、地域ミニコミ紙、更には町会回覧板、町会掲示板などを利用し、予算上許されれば全家庭へ“40周年関連行事のお知らせ”を配布する。最近の転入者や現役退職直後のシニア世代の方達へも充分PRしたいと思う	“お知らせ”の配布や諸関連施設でのPRが行き届けば、小・中・高などの若年層にも次代を担う意識や郷土愛を育む芽生えが期待できるかも知れない。